

「こどもの不思議。すべてに理由がある」

特定非営利活動法人 阿賀野児童福祉会

〒959-2031 新潟県阿賀野市金田町9-35

助成事業の概要

ここ数年、児童虐待防止活動について耳にする機会が多いが、その多くは根本的な解決策ではなく表面の対処法（児童虐待発見の啓発や相談会の開催など）にしか見えない。暴力にしてもネグレクトにしても「こうなった時にどうする」ではなく「こうならない」ためにどうするかが必要ではないだろうか。

虐待の一つの要因として「子供がわからない」というものがある。

子供がわからない大人（親）の言うことを子供がわからないのは当然である。しかし、そんな大人（親）はそれがわからずに、「言うとおりに動かないから暴力をふるう」などの行動をとるとするのはよく聞く事例である。それならば、子供を理解できれば虐待は無くなる（もしくは減る）との逆説が成り立つのではないだろうか。

という理由をもとに保護者と保育関係者や教育関係者に対し子供を理解する講習会を実施（6月）することで、子供のことを少しでも理解してもらう。それが児童虐待の削減につながるための全ての保育・全ての子供に関わる人の意識改革を目標とする。

事業の成果

今回の研修は当初50名で予定したが実際は35名と7割程度だったが、参加者からいただいたアンケートはどれも当法人への感謝の内容だった。

講師の予定が合わないことから内容を変更したことが逆に良かったらしい。

午前中の講演で子供に対しての接し方の大綱を聞き、午後の1コマ目で様々な県の園長から具体的手法を聞く。その上で最後にアトランダムに分けたグループで個人の体験や現状に合わせて思考する。

参加した人たちだけが、申請当初から目標とした保育や子供にかかわる人の意識改革は達成できた。

アンケート から

「褒めることの大切さや保育士が子供に押し付けている部分があることを理解できた。先生方の話が素晴らしく心に響いた。また参加したい」（20代保育士）

「平岩先生の話はとても良かったです。実践して役立てていきたいと思います。ワークショップではいろいろな見方・考え方・意見があり、とてもよい経験でした」（50代保育士）

「今回は職員2名での参加だったが、できれば保育園の職員全員で参加したい内容でした。次回はより多くの職員が参加できる曜日や時間を希望します」（30代保育園園長）

など、年齢や職種に関係なく参加者のほとんどから次回の希望があった。

成果の広報、公表

ホームページは現在制作中なのですぐにアップすることはできないが、今回の参加者から勉強会

を開催したいので資料の提供と話の進め方のアドバイスをしてほしいとの連絡を受けた。

映像の録画や音声の録音を認めることはできないので、OJT などの勉強会の資料として活用してもらうことが成果の広報となり公表につながる事となる。

■ 今後の展開

今後も様々な団体の力を借り、児童虐待防止活動を様々な形で行っていく。

今年から来年にかけては今回のように子供に視点を合わせて展開していく。

それ以降は子供だけでなく、保護者に視点を合わせ、理屈はわかっているが感情を制御できない大人（特に母親）を如何にサポートするかという面も加えていく。

報道では父親の虐待をよく耳にするが、発生件数は DV 被害者の母親が子供にあたるケースが全体の4割を超えている。つまり、父親母親のどちらだけでなく両方を一緒に、家族をサポートすることが今もこれからも求められる点を念頭に展開する。